

## 第1編 総説

平成20年に告示された学習指導要領（以下「新学習指導要領」という。）の下で行われる学習評価について、平成22年3月に中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会報告「児童生徒の学習評価の在り方について」（以下「報告」という。）がとりまとめられた。また、同年5月に発出された文部科学省初等中等教育局長通知「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」（以下「学習評価及び指導要録の改善通知」という。）では、学習評価の改善を図っていくための基本的な考え方について示されている。

これらを踏まえ、本センターでは、各学校における児童生徒の学習の効果的・効率的な評価に資するため、平成22年5月から評価規準、評価方法等の工夫改善に関する調査研究を行い、同年11月に「評価規準の作成のための参考資料」をとりまとめ、平成23年3月に、本資料をとりまとめた。

### 第1章 目標に準拠した評価の実施について

新学習指導要領の下で行われる学習評価について、学習評価及び指導要録の改善通知では、きめの細かな指導の充実や児童生徒一人一人の学習の確実な定着を図るため、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況の評価する目標に準拠した評価を各学校において引き続き着実に実施することが重要であると示されている。このことは、各学校における目標に準拠した評価による各教科の観点別学習状況の評価や評定の着実な実施を意味している。

また、この学習評価及び指導要録の改善通知では、学校教育法の一部改正（平成19年6月公布）を受けて改訂された新学習指導要領の総則に示された学力の3つの要素を踏まえて、評価の観点が「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」及び「知識・理解」に整理され、その趣旨とともに示されている。

#### 1 評価規準の設定と「評価規準の作成のための参考資料」について

各学校における観点別学習状況の評価が効果的に行われるようにするため、各教科の評価の観点及びその趣旨を参考として、評価規準の工夫・改善を図ることが重要であることから、本センターでは、平成22年11月に「評価規準の作成のための参考資料」をとりまとめた。

目標に準拠した評価を着実に実施するためには、各教科の目標だけでなく、領域や内容項目レベルの学習指導のねらいが明確になっている必要がある。そして、学習指導のねらいが児童生徒の学習状況として実現されたというのは、どのような状態になっているかが具体的に想定されている必

要がある。

このような状況を具体的に示したものが評価規準であり、各学校において設定するものである。

以上のような考え方を踏まえ、各学校において評価規準を設定する際の参考となるよう作成した「評価規準の作成のための参考資料」では、第1に、学習指導要領の学年（又は分野）目標を実現するために、各教科の内容のまとまりごとに「評価規準に盛り込むべき事項」を示している。

「評価規準に盛り込むべき事項」は、新学習指導要領の各教科の目標、学年（又は分野）の目標及び内容の記述をもとに、学習評価及び指導要録の改善通知で示されている各教科の評価の観点及びその趣旨、学年（又は分野）別の評価の観点の趣旨を踏まえて作成している。

第2に、各学校において単元や題材ごとの評価規準や学習活動に即した評価規準を設定するに当たって参考となるよう、「評価規準に盛り込むべき事項」をより具体化したものを「評価規準の設定例」として示している。

「評価規準の設定例」は、原則として、新学習指導要領の各教科の目標、学年（又は分野）の目標及び内容のほかに、当該部分の学習指導要領解説（文部科学省刊行）の記述をもとに作成している。

これらや教育委員会が作成した学習評価に関する参考となる資料を参考にしつつ、各学校において適切な評価規準が設定されることが期待される。

## 2 評価方法の工夫改善について

各学校においては、各教科の学習活動の特質、評価の観点や評価規準、評価の場面や児童生徒の発達段階に応じて、観察、児童生徒との対話、ノート、ワークシート、学習カード、作品、レポート、ペーパーテスト、質問紙、面接などの様々な評価方法の中から、その場面における児童生徒の学習の状況を的確に評価できる方法を選択していくことが必要である。上記のような評価方法に加えて、児童生徒による自己評価や児童生徒同士の相互評価を工夫することも考えられる。

評価を適切に行うという点のみでいえば、できるだけ多様な評価を行い、多くの情報を得ることが重要であるが、他方、このことにより評価に追われてしまえば、十分に指導ができなくなるおそれがある。児童生徒の学習状況を適切に評価し、その評価を指導に生かす点に留意する必要がある。

なお、ペーパーテストは、評価方法の一つとして有効であるが、ペーパーテストにおいて得られる結果が、目標に準拠した評価における学習状況のすべてを表すものではないことについては、改めて認識する必要がある。

そこで、例えば、ワークシート等への記述内容は、「知識・理解」の評価だけでなく、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」の評価にも活用することが可能であり、児童生徒の資質や能力を多面的に把握できるように工夫し、活用することが考えられる。

### 3 評価時期等の工夫について

報告では、評価時期に関して、以下の2点について述べられている。

- ・授業改善のための評価は日常的に行われることが重要である。一方で、指導後の児童生徒の状況を記録するための評価を行う際には、単元等のある程度長い区切りの中で適切に設定した時期において「おおむね満足できる」状況等にあるかどうかを評価することが求められる。
- ・「関心・意欲・態度」については、表面的な状況のみに着目することにならないよう留意するとともに、教科の特性や学習指導の内容等も踏まえつつ、ある程度長い区切りの中で適切な頻度で「おおむね満足できる」状況等にあるかどうかを評価するなどの工夫を行うことも重要である。

各学校で年間指導計画を検討する際、それぞれの単元（題材）において、観点別学習状況の評価に係る最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要である。これにより、評価すべき点を見落としていないかを確認するだけでなく、必要以上に評価機会を設けることで評価資料の収集・分析に多大な時間を要するような事態を防ぐことができ、各学校において効果的・効率的な学習評価を行うことにつながると考えられる。

## 第2章 各学校における指導と評価の工夫改善

### 1 指導と評価の一体化

新学習指導要領は、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力、判断力、表現力等をバランスよく育てることを重視している。各教科の指導に当たっては、児童生徒の主体的な活動を生かしながら、目標の確実な実現を目指す指導の在り方が求められる。

このバランスのとれた学力を育成するためには、学習指導の改善を進めると同時に、学習評価においては、各観点ごとの評価をバランスよく実施することが必要である。

さらに、学習評価の工夫改善を進めるに当たっては、学習評価をその後の学習指導の改善に生かすとともに、学校における教育活動全体の改善に結びつけることが重要である。その際、学習指導の過程や学習の結果を継続的、総合的に把握することが必要である。

各学校においては、児童生徒の学習状況を適切に評価し、評価を指導の改善に生かすという視点を一層重視し、教師が指導の過程や評価方法を見直して、より効果的な指導が行えるよう指導の在り方について工夫改善を図っていくことが重要である。

### 2 学習評価の妥当性、信頼性

報告では、各学校や設置者の創意工夫を生かす現場主義を重視した学習評価として、各学校においては、組織的・計画的な取組を推進し、学習評価の妥当性、信頼性等を高めるよう努めることが重要であるとされている。ここでいう学習評価の「妥当性」は、評価結果が評価の対象である資質や能力を適切に反映しているものであることを示す概念とされている。この「妥当性」を確保していくためには、評価結果と評価しようとした目標の間に適切な関連があること（学習評価が学習指導の目標に対応するものとして行われていること）、評価方法が評価の対象である資質や能力を適切に把握するものとしてふさわしいものであること等が求められるとされている。

また、学習評価及び指導要録の改善通知では、学校や設置者において、学習評価の妥当性、信頼性を高める取組が求められている。

妥当性、信頼性を高めるためには、各学校において、次のような取組が有効と考えられる。

まず、学習評価を進めるに当たっては、指導の目標及び内容と対応した形で評価規準を設定することや評価方法を工夫する必要がある。

特に、評価方法を検討する際には、評価の観点で示される資質や能力等を評価するのにふさわしい方法を選択することが、評価の妥当性や信頼性

を高めることになる。

また、評価方法を評価規準と組み合わせて設定することが必要であり、評価規準と対応するように評価方法を準備することによって、評価方法の妥当性、信頼性が高まるものと考えられる。

### 3 学校全体としての組織的・計画的な取組

学習評価の工夫改善を進めるに当たっては、評価規準を適切に設定するとともに、評価方法の工夫改善を進めること、評価結果について教師同士で検討すること、授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること等について、校長のリーダーシップの下、学校として、組織的・計画的に取り組むことが必要である。

#### (1) 教師の共通理解と力量の向上

学校全体として評価についての力量を高めるためには、学校としての評価の方針、方法、体制、結果などについて、校長のリーダーシップの下、日頃から教師間の共通理解を図る必要がある。このように、評価に関する情報の共有や交換により、経験年数等に左右されず教師が共通の認識をもって評価に当たることができるようにすることが重要である。

さらに、複数の教師で、どのように学習評価を進めれば指導に生かす評価の充実が図れるのか、教師にとって過大な負担とならないかなどについて確認し合うことが、効果的で効率的な評価を行うことにつながる。

以上のことを学校として組織的に実施するために、校内研究・研修の在り方を一層工夫する必要がある。

そのうえで、これまでの実践の蓄積を生かしていくことが大切であり、学校として組織的・計画的に取り組むことが、評価の妥当性、信頼性を高めることになる。

#### (2) 保護者や児童生徒への情報の提供

学習評価及び指導要録の改善通知では、保護者や児童生徒に対して、学習評価に関する仕組み等について事前に説明したり、評価結果の説明を充実したりするなどして学習評価に関する情報をより積極的に提供することも重要とされている。

どのような評価規準、評価方法により評価を行ったのかといった情報を保護者や児童生徒にわかりやすく説明し、共通理解を図ることが重要となる。信頼される評価を行うためには、評価が目的に応じて、保護者や児童生徒などの関係者の間でおおむね妥当であると判断できるものであることも重要な意味をもつ。

### 第3章 本資料の構成及び主な内容等

本資料の構成は、第1編 総説，第2編 各教科，第3編 特別活動，第4編 外国語活動からなっている。各教科，特別活動，外国語活動で紹介する事例の特徴は以下のとおりである。

#### 1 各教科の事例について

##### (1) 単元（題材）の評価に関する事例の提示

本資料では、原則として、教科ごとに4事例提示している。なお、体育については6事例（運動領域4事例，保健領域2事例）を提示している。

事例の提示に当たっては、以下の点に留意した。

第1に、事例1については、1単元（題材）における指導と評価の計画を示しながら、当該教科における各観点の特徴を踏まえた評価の留意点を説明している点である。

第2に、「単元（題材）の評価規準」などを示すとともに、それらがどの「評価規準に盛り込むべき事項」や「評価規準の設定例」を参考に設定されたかが分かるようにしている。

第3に、「指導と評価の計画」の中に、当該単元（題材）において、どのような評価方法を選択し組み合わせたかが分かるようにするとともに、教科により、必要に応じて、ワークシートや作品などの評価方法として活用したものを資料として提示したり、具体的に工夫した点についての説明を加えたりして、多様な方法を紹介した点である。

第4に、「おおむね満足できる」状況、「努力を要する」状況、「十分満足できる」状況と判断した児童生徒の具体的な状況の例などを示している。また、「努力を要する」状況と判断した児童生徒への指導の手立てや働きかけを示したり、「努力を要する」状況に至ることのないよう配慮した点を示したりした点である。

第5に、当該単元（題材）において、観点ごとにどのような総括を行ったのかについて、その考え方や具体例などを示した点である。

##### (2) 効果的・効率的な評価

ある単元（題材）において、あまりにも多くの評価規準を設定したり、多くの評価方法を組み合わせたりすることは、評価を行うこと自体が大きな負担となり、その結果を後の学習指導の改善に生かすことも十分できなくなるおそれがある。例えば、1単位時間の中で4つの観点すべてについて評価規準を設定し、そのすべてを評価し学習指導の改善に生かしていくことは現実的には困難であると考えられる。教師が無理なく児童生徒の学習状況を的確に評価できるよう評価規準を設定し評価方法を

選択することが必要である。

また、評価の実践を踏まえ、必要に応じて評価規準や評価方法について検討し見直しを行っていくことも効果的である。

本資料では、教科ごとに複数の事例を紹介しているが、効果的・効率的な評価を進めるうえで参考となるよう以下の点に配慮した。

- ・ 評価結果を記録する機会を過度に設定することのないよう、各観点で1単元（題材）内で平均すると1単位時間当たり1～2回の評価回数となるよう指導と評価の計画を示した。
- ・ ノートやレポート、ワークシート、作品など、授業後に教師が確認しながら評価を行えるような方法と、授業中の見取りを適切に組み合わせ、全員の学習状況を適切に見取りつつ、それぞれの児童生徒の特性にも配慮した評価方法が採用できるよう配慮した。
- ・ 評価が円滑に実施できていないと教師がとらえている観点をはじめとして、それぞれの観点において、どのような児童生徒の姿や記述等を評価対象とすればよいかを明確に示すようにした。

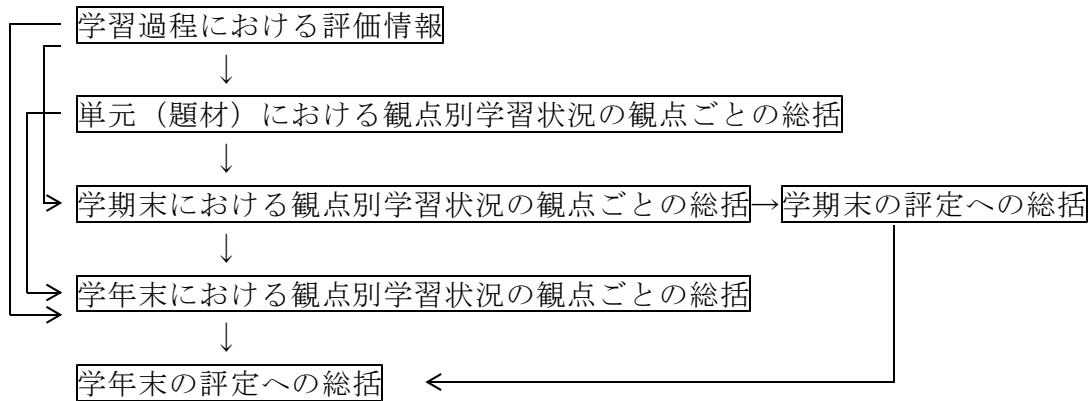
### （3）総括

観点別学習状況の評価を総括する時期を、単元末、学期末、学年末とした場合、どの段階で、どの評価情報に基づいて総括するかによって、結果に違いが生じることも考えられる。（例えば、学年末に総括する際、単元末の評価結果を年間を通して総括するか、一度学期ごとに総括した評価結果から総括するかで結果が異なる場合もあり得る。）

また、評価情報の蓄積の方法については、次のようなものが考えられる。

- ・ 評価の A, B, C を蓄積する方法  
学習活動に即した評価規準を観点ごとに設け、「十分満足できる」と判断されるものを A, 「おおむね満足できる」と判断されるものを B, 「努力を要する」と判断されるものを C などのようにアルファベットや記号で記録し、その結果を蓄積していく方法で、総括においては A, B, C の数をもとに判断することになる。
- ・ 評価を数値で表して蓄積する方法  
学習の実現状況を数値で表したものを蓄積していく方法である。例えば、A = 3, B = 2, C = 1 というように数値で表し、蓄積する。総括の際には、蓄積した数値の合計点や平均値などを用いることになる。

観点別学習状況の評価の観点ごとの総括の他、評定への総括は、学期末や学年末などに行うことが考えられる。具体的な総括の流れとしては、以下の図に示したように、いくつかの例が考えられる。



### ① 観点別学習状況の評価の観点ごとの総括

単元(題材)における観点ごとの総括については、教科ごとに事例の中でも取り上げている。学期末や学年末における観点ごとの評価の総括、評定への総括については、「学習評価の工夫改善に関する調査研究」(平成16年3月、国立教育政策研究所)をもとに考え方を示している。

なお、各学校における総括の具体的な考え方や方法等は、これらを参考にしつつ、より一層工夫していくことが必要である。

#### ア 単元(題材)における観点ごとの評価の総括

単元(題材)においては、学習過程における評価情報を観点ごとに総括する。観点ごとの評価記録が複数ある場合の総括の方法としては、次のようなものが考えられる。

##### (ア) 評価結果の A, B, C の数

ある観点でいくつかのまとまりごとに何回か行った評価結果の A, B, C の数が多いものが、その観点の学習の実現状況を最もよく表しているとする考え方に立つ総括方法である。例えば、3回評価を行った結果が「ABB」ならば B と総括する。なお、「AABB」の総括結果を A とするか B とするかなど、同数の場合や3つの記号が混在する場合の総括の仕方をあらかじめ決めておく必要がある。

##### (イ) 評価結果の A, B, C を数値に表す

ある観点でいくつかのまとまりごとに何回か行った評価結果 A, B, C を、例えば、 $A = 3$ ,  $B = 2$ ,  $C = 1$  のように数値によって表して、合計したり、平均したりすることで総括する方法である。例えば、(総括の結果を B とする判断の基準を  $[1.5 \leq \text{平均値} \leq 2.5]$ ) とすると、「ABB」の平均値は、約  $2.3 [(3 + 2 + 2) \div 3]$  で総括結果は B となる。

このほか、本資料では、観点によって特定の評価機会における結果について重み付けした例なども紹介している。

イ 学期末における観点ごとの評価の総括

学期末における観点ごとの評価の総括は、単元（題材）ごとに総括した観点ごとの評価結果をもとに行う場合と、学習過程における評価情報から総括する場合が考えられる。

なお、総括の方法は、ア（ア）及び（イ）と同様であると考えられる。

ウ 学年末における観点ごとの評価の総括

学年末における観点ごとの総括については、学期末に総括した観点ごとの評価結果をもとに行う場合と、単元（題材）ごとに総括した観点ごとの評価結果をもとに行う場合などが考えられる。

なお、総括の方法は、ア（ア）及び（イ）と同様であると考えられる。

② 観点別学習状況の評価の評定への総括

評定が学習指導要領に示す各教科の目標に照らして学習の実現状況を総括的に評価するものであるのに対し、観点別学習状況は学習指導要領に示す各教科の目標に照らして学習の実現状況を分析的に評価するものであり、観点別学習状況の評価が評定を行うための基本的な要素となる。

なお、評定への総括の場面は、学期末や学年末などに行われることが多い。学年末に評定へ総括する場合には、学期末に総括した評定の結果をもとにする場合と、学年末に観点ごとに総括した評価の結果をもとにする場合が考えられる。

観点別学習状況の評価の評定への総括は、各観点の評価結果を A, B, C の組合せ、又は、A, B, C を数値で表したものに基づいて総括し、その結果を小学校では 3 段階で表し、中学校では 5 段階で表す。

A, B, C の組合せから評定に総括する場合、各観点とも同じ評価がそろう場合は、小学校については、「AAAA」であれば 3、「BBBB」であれば 2、「CCCC」であれば 1、中学校については、「AAAA」であれば 4 又は 5、「BBBB」であれば 3、「CCCC」であれば 2 又は 1 とするのが適当であると考えられる。それ以外の場合は、各観点の A, B, C の数の組合せから適切に評定する必要がある。

なお、観点別学習状況の評価結果は A, B, C など表されるが、そこで表された学習の実現状況には幅があるため、機械的に評定を算出することは適当ではない場合も予想される。

また、評定は 3, 2, 1 や 5, 4, 3, 2, 1 という数値で表されるが、これを見童生徒の学習の実現状況を 3 つないし 5 つに分類したものとしてとらえるのではなく、常にこの結果の背景にある見童生徒の具体的な学習の実現状況を思い描き、適切にとらえることが大切である。

評定への総括に当たっては、このようなことについても十分に検討する必要がある。

そして、評価に対する妥当性や信頼性を高めるために、各学校では観点別学習状況の評価の観点ごとの総括及び評定への総括の考え方や方法について共通理解を図り、児童生徒及び保護者に十分説明し理解を得ることが大切である。

## 2 特別活動について

特別活動は、各教科と異なり、全校又は学年を単位として行う活動があり、また、学級担任以外の教師が指導することが多い。

そのため、本資料においては、学習指導要領に示された活動ごとに工夫例を交えながら評価の進め方や留意点等について記述している。特に、指導と評価の計画例では、学習評価及び指導要録の改善通知で示されている評価の観点や、「評価規準の作成のための参考資料」で示されている「評価規準に盛り込むべき事項」を活用している。

## 3 外国語活動について

学習評価及び指導要録の改善通知では、外国語活動の記録について、「評価の観点を記入した上で、それらの観点に照らして、児童の学習状況に顕著な事項がある場合にその特徴を記入する等、児童にどのような力が身に付いたかを文章で記述する」ことが示されている。また、評価の観点については、設置者は、小学校学習指導要領等に示す外国語活動の目標を踏まえ、同通知を参考に設定すること、各学校において観点を追加して記入できるようにすることが示されている。

これを踏まえて、各学校における評価の観点に照らした学習評価の円滑な実施に資するため、本センターでは、小学校外国語活動における評価方法等の工夫に関する調査研究を行い、その成果をとりまとめた。

ここでは、外国語活動の学習評価を行う際の留意点のほかに、「英語ノート」（平成21～23年度文部科学省配布）に掲載された指導案に沿った事例や、「英語ノート」に掲載された指導案とは異なる活動に基づく事例を紹介している。

## ◎各教科の事例を読むにあたって

### □各教科における学習評価

各学校で評価規準を設定する際に、「評価規準の作成のための参考資料」の「評価規準に盛り込むべき事項」や「評価規準の設定例」をどのように活用するか、また、設定する際の留意点等について解説している。

### □各教科の事例

事例1は、単元（題材）の目標、単元（題材）の評価規準、指導と評価の計画、観点別評価の進め方、観点別評価の総括の順に記述されており、単元（題材）の評価規準の設定から総括までの一連の流れがわかるようにしている。

事例2～4（体育については6）については、それぞれ説明する内容に沿った項目、配列等になっている。

また、全ての事例にキーワードを付し、各事例で紹介する内容のポイントがわかるようにしている。

さらに、学習指導要領の内容と「評価規準の作成のための参考資料」で示している「評価規準の設定例」等の関連する箇所がわかるようにしている。

教科名 事例△  
単元（題材）名

第△学年 ◇内容のまとめり

キーワード

◇は、当該事例で扱う学習指導要領の内容と評価規準の設定例等との関連を確認できるように、「評価規準の作成のための参考資料」における内容のまとめりを記しています。

## 音楽科における学習評価

### 1 評価規準の設定について

#### (1) 評価規準の設定における基本的な考え方

音楽科では、新学習指導要領の趣旨を生かした学習指導を行い、その学習状況について児童一人一人を適切に評価するため、新しい評価の観点を「音楽への関心・意欲・態度」、「音楽表現の創意工夫」、「音楽表現の技能」、「鑑賞の能力」とした。

「評価規準の作成のための参考資料」で示した評価規準の設定例は、各学校が主に題材の評価規準を設定する際の参考となるように作成している。

「A表現・歌唱」、「A表現・器楽」、「A表現・音楽づくり」では、「音楽への関心・意欲・態度」、「音楽表現の創意工夫」、「音楽表現の技能」の学習状況を、「B鑑賞」では、「音楽への関心・意欲・態度」、「鑑賞の能力」の学習状況を評価する。

#### (2) 評価規準の設定例等の活用

各学校において評価規準を設定する際には、指導のねらい、教材の特徴、学習活動等を考慮して、学習状況を適切に評価することのできる評価規準を設定することが大切である。その際、必要に応じて、評価規準の設定例の記述を具体化する、設定例から必要な事項を取り上げる、あるいは複数の設定例を参考にするなどの工夫が求められる。

「音楽表現の創意工夫」及び「鑑賞の能力」のそれぞれの観定の趣旨には、「音楽を形づくっている要素」を示している。この内容は、音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なりや和声の響き、音階や調、拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴付けている要素や、反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係などの音楽の仕組みを含むものである。参考資料の設定例をもとに、必要に応じて具体的に示すことが求められる。

各学校においては、評価規準の設定例を参考にして、次のように評価規準を設定することが考えられる。例えば、第4学年において、歌唱共通教材「とんび」を取り上げて、曲想にふさわしい表現を工夫して歌う学習を展開する場合、学習指導要領の内容は、「A表現」(1)歌唱の指導事項イ「歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと」及び、〔共通事項〕を扱う。このような学習を「音楽表現の創意工夫」の観点で評価する場合は、評価規準の設定例を参考にして、次のように評価規準を設定することができる。

【評価規準の設定例】（第3学年及び第4学年：「A表現・歌唱」「音楽表現の創意工夫」）

音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願い、意図をもっている。

事例1では、学習内容に対応する評価規準の設定例をもとに、〔共通事項〕事項アの「音楽を形づくっている要素」や(1)歌唱の指導事項イの「歌詞の内容」について、教材等の特徴に即して具体化し、次の評価規準を設定している。

【事例1の評価規準】音楽表現の創意工夫 -

「とんび」の旋律，強弱，フレーズ，反復，問いと答えを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら，歌詞の表す様子，曲想にふさわしい表現を工夫し，どのように歌うかについて自分の考えや願い，意図をもっている。

## 2 各事例のポイント

**事例1** 「曲想を感じ取ってえんそうしよう」(第4学年)

評価計画の立て方，観点別評価の方法，観点別評価の総括歌唱と器楽の関連を図った事例である。ここでは，評価計画の立て方と観点別評価の方法，観点別評価の総括の仕方について，具体例に即して紹介している。

**事例2** 「祭りの音楽に親しもう」(第5学年)

「音楽表現の創意工夫」，「音楽表現の技能」の評価器楽と鑑賞の関連を図った事例である。ここでは，その中から，器楽における「音楽表現の創意工夫」，「音楽表現の技能」の評価の進め方について，学習カードの記述，発言の内容，行動の観察，演奏の聴取，児童との対話による評価方法を，実際の評価場面に即して紹介している。

**事例3** 「といとこたえの音がくをたのしもう」(第2学年)

「音楽への関心・意欲・態度」，「音楽表現の創意工夫」の評価歌唱，音楽づくり，鑑賞の関連を図った事例である。ここでは，その中から，音楽づくりにおける「音楽への関心・意欲・態度」，「音楽表現の創意工夫」の評価の進め方について，行動の観察，発言の内容による評価方法を，実際の評価場面に即して紹介している。

**事例4** 「曲想を味わってきこう」(第4学年)

「鑑賞の能力」の評価鑑賞の事例である。ここでは，「鑑賞の能力」の評価の進め方について，学習カードの記述や発言の内容による評価方法を，実際の評価場面に即して紹介している。加えて，指導と評価を一体的に進めるために，児童の発言の内容を整理した板書や，学習の過程と全体像が見える学習カードの例も示している。

また，すべての事例において「指導と評価の計画」を共通に示し，実際に指導と評価の計画を立てる際の参考となるようにしている。

なお，本事例における評価規準の表記は，次のように簡略化して示している。

音楽への関心・意欲・態度 - 【関】	音楽表現の創意工夫 - 【創】
音楽表現の技能 - 【技】	鑑賞の能力 - 【鑑】

音楽科 事例 1

題材名 曲想を感じ取ってえんそうしよう

第4学年「A表現・歌唱」「A表現・器楽」

キーワード：

評価計画の立て方

観点別評価の方法

観点別評価の総括

本事例では、歌唱教材として「とんび」（葛原しげる作詞／梁田貞作曲），器楽教材として「エーデルワイス」（R.ロジャーズ作曲）を扱う。いずれも旋律の特徴を感じ取りやすい楽曲である。歌詞の内容，曲想にふさわしい表現を工夫して歌ったり，曲想にふさわしい表現を工夫してリコーダーを演奏したりする学習を展開する。学習指導要領の内容は，「A表現」（1）歌唱の指導事項イ，ウ，（2）器楽の指導事項ア，イ，ウ，〔共通事項〕のうち旋律，強弱，フレーズ，反復，問いと答えなどを扱う。

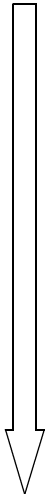
## 1 題材の目標

- （1）歌詞の内容，曲想に興味・関心をもって，歌ったりリコーダーを演奏したりする学習に進んで取り組む。
- （2）旋律，強弱，フレーズ，反復，問いと答えなどを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら，歌詞の内容，曲想にふさわしい歌唱表現を工夫したり，曲想にふさわしい器楽表現を工夫したりする。
- （3）曲想にふさわしい表現で歌ったりリコーダーを演奏したりするとともに，範奏を聴いたり楽譜を見たりして演奏する。

## 2 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
「とんび」の歌詞の表す様子，曲想に興味・関心をもって進んで歌おうとしている。  「エーデルワイス」の曲想にふさわしい表現を工夫し，思いや意図をもってリコーダーを演奏する学習に進んで取り組もうとしている。	「とんび」の旋律，強弱，フレーズ，反復，問いと答えを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら，歌詞の表す様子，曲想にふさわしい表現を工夫し，どのように歌うかについて自分の考えや願い，意図をもっている。  リコーダーの音色，「エーデルワイス」の旋律，フレーズ，反復を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら，曲想にふさわしい表現を工夫し，どのように演奏するかについて自分の考えや願い，意図をもっている。	フレーズごとの呼吸に気を付けて，「とんび」の歌詞の表す様子，曲想にふさわしい表現で歌っている。  「エーデルワイス」の範奏を聴いたり，八長調の楽譜を見たりして演奏している。  音色に気を付けて，「エーデルワイス」の曲想にふさわしい表現でリコーダーを演奏している。

3 指導と評価の計画（5時間）

時間	ねらい 学習内容・学習活動	評価規準・評価方法		
		関 - 音楽への 関心・意欲・態度	創 - 音楽表現の 創意工夫	技 - 音楽表現の技能
第1次	<p>「とんび」の歌詞の表す様子，曲想にふさわしい表現を工夫して歌う。</p> <p>「とんび」の楽曲の特徴を感じ取って旋律を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・範唱を聴いて感じたことを発表する。</li> <li>・歌詞を読んだり，とんびの写真を見たりしながら，歌詞の表す様子や雰囲気を感じ取る。</li> </ul>			
第1時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音程やリズムに気を付けて，楽譜を見ながら歌詞唱する。</li> <li>・楽曲の特徴的なところを学習カードに書いて発表する。</li> <li>・歌詞の表す様子を思い浮かべながら歌う。</li> </ul> <p>「とんび」の歌詞の表す様子や，曲想にふさわしい表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第3フレーズの「ピンヨロ」の問いと答えの部分について，呼びかけ合っている様子にふさわしい強弱表現を工夫して歌う。（児童の発言例）</li> <li>・「呼びかけ合っている感じがするから1小節ごとにf，p，f，pで歌おう」</li> <li>・「とんびが鳴きながら近付いてきて，過ぎ去っていく様子を表現したいから，前半2小節はfで後半2小節はpで歌おう」</li> <li>・1時目の中で学習した表現を生かして，みんなで「とんび」を歌う。</li> </ul>	<p>「とんび」の歌詞の表す様子，曲想に興味・関心をもって進んで歌おうとしている。</p> <p>行動の観察，発言の内容，演奏の聴取</p>	<p>「とんび」の旋律，強弱，フレーズ，反復，問いと答えを聞き取り，それらの働きが生ま出すよさや面白さなどを感じ取りながら，歌詞の表す様子，曲想にふさわしい表現を工夫し，どのように歌うかについて自分の考えや願い，意図をもっている。</p>	
第2時	<p>「とんび」の歌詞の表す様子，曲想にふさわしい表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時を振り返り，第3フレーズの「ピンヨロ」の問いと答えの部分について強弱表現を工夫して歌う。</li> <li>・第1，2，4フレーズはどう表現したいかを考える。</li> <li>・旋律の動きを，歌いながら手の動きに表してみる。（児童の発言例）</li> <li>・「2小節がひとまとまりかな。だって，真ん中で盛り上がっているよ」</li> <li>・「4段目は，2小節から3小節が盛り上がっているよ」</li> </ul> <p>「とんび」の旋律の動きと強弱表現とを関連させながら表現を工夫する。（児童の発言例）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「上がるときクレシェンド，下がるときデクレシェンドすると，とんびがゆったりと飛んでいる様子が伝わるかな」</li> <li>・第1，2，4フレーズと第3フレーズの動きの違いを感じながら歌う。</li> <li>・1～2時目で学習した表現を生かし</li> </ul>		 <p>第1時の後半から第2時の評価 学習カードの記述，発言の内容，演奏の聴取</p>	<p>フレーズごとの呼吸に気を付けて，「とんび」の歌詞の</p>

	て、歌詞の表す様子や曲想にふさわしい表現で歌う。			表す様子、曲想にふさわしい表現で歌っている。 演奏の聴取
		第1フレーズは1～4小節、第2フレーズは5～8小節、第3フレーズは9～12小節、第4フレーズは13～16小節を指す。		
第二次	「エーデルワイス」の曲想にふさわしい表現を工夫してリコーダーを演奏する。			
第3時	<ul style="list-style-type: none"> <li>「エーデルワイス」の特徴を感じ取ってリコーダーで旋律を演奏する。</li> <li>旋律の特徴を感じ取りながら、リコーダーの範奏を聴く。</li> <li>3拍子の拍の流れを感じてリズム打ちをしたり、楽譜を見ながら階名唱をしたりする。</li> <li>範奏を聴いたり、楽譜を見たりしながら、リコーダーで旋律を演奏する。運指や音色に気を付けてリコーダーを演奏する。</li> <li>運指に気を付けて曲全体を演奏する。</li> <li>音色に気を付けて、適切な息の強さやタンギングで演奏する。</li> </ul>			「エーデルワイス」の範奏を聴いたり、八長調の楽譜を見たりして演奏している。 行動の観察、演奏の聴取
第4時	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲想にふさわしいリコーダーの表現を工夫する。</li> <li>「とんび」での表現を想起しながら、旋律の動きとそのまとまりを考えて、表現を工夫する。(児童の発言例)</li> <li>「旋律が上がって下がっているところが『とんび』に似ているね」</li> <li>「4小節の旋律のまとまりをなめらかに吹きたいね」</li> <li>17～24小節について、曲想の変化にふさわしい表現を工夫する。(児童の発言例)</li> <li>「これまでのなめらかな吹き方とは違うね」</li> <li>「(17～18小節は)はずむような感じだから、タンギングをはっきりしよう」</li> </ul>		リコーダーの音色、「エーデルワイス」の旋律、フレーズ、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや願い、意図をもっている。 学習カードの記述、発言の内容、演奏の聴取	
第5時	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時までの学習をもとに、グループごとに、「エーデルワイス」のリコーダー演奏について、曲想にふさわしい表現を追求する。</li> <li>旋律の動きにふさわしい息の強さやタンギングを工夫する。</li> <li>再現による反復など音楽の仕組みをとらえて表現を工夫する。(児童の工夫例)</li> <li>演奏する人数で再現部分の強弱を工夫する。</li> <li>フレーズとフレーズを呼びかけと答えのように、交互に演奏する。</li> <li>グループごとに、表現を工夫した「エーデルワイス」の演奏を発表する。</li> <li>工夫した点を紹介しながら発表する。</li> <li>各グループの発表を聴き、演奏効果のあったところについて話し合う。</li> </ul>	「エーデルワイス」の曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもってリコーダーを演奏する学習に進んで取り組もうとしている。 振り返りの記述、行動の観察		音色に気を付けて、「エーデルワイス」の曲想にふさわしい表現でリコーダーを演奏している。 演奏の聴取

#### 4 観点別評価の進め方

本事例は、「A表現・歌唱」、「A表現・器楽」の複数の活動分野から内容を構成し、観点別評価を行なうようにしたものである。

##### (1) 参考資料を活用した評価規準の設定

本事例では、参考資料の設定例を活用して題材の評価規準を導くようにした。本事例における評価規準は、参考資料の第3学年及び第4学年の【「A表現・歌唱」の評価規準の設定例】【「A表現・器楽」の評価規準の設定例】を参考に、題材のねらい、教材の特徴、学習活動等を考慮して設定したものである。

##### (2) 題材のねらいに応じた観点の設定

題材全体を通して、題材の目標に応じて複数の観点について評価することとし、目標の実現状況が見取りやすいようにした。本題材で取り上げた「とんび」では、「A表現・歌唱」の活動において「音楽への関心・意欲・態度」、「音楽表現の創意工夫」、「音楽表現の技能」のそれぞれの観点の学習状況を、「エーデルワイス」では、「A表現・器楽」の活動において「音楽への関心・意欲・態度」、「音楽表現の創意工夫」、「音楽表現の技能」のそれぞれの観点の学習状況を評価する機会を設定し、それらを関連付けながら評価することとした。

なお、必要に応じて、「題材の評価規準」を更に具体化した学習活動に即した評価規準を設定することも考えられるが、本事例では、題材の評価規準をそのまま実際の評価に用いる評価規準とした。

##### (3) 題材内でのバランスの取れた評価計画の工夫

観点別に評価を行う際には、5時間の配当時間内におけるバランスを考慮するとともに、1単位時間に一～二の評価規準を設定し、効果的・効率的に評価できるよう配慮した。

なお、評価項目の配置については前後の関連付けも工夫している。例えば「音楽への関心・意欲・態度」は、第1時【関- 】と第5時【関- 】に位置付けて、導入時における学習内容への興味・関心と、終末時における主体的な取組の学習状況を見取るようにした。また【技- 】【技- 】は、いずれも【創- 】【創- 】の後に置いている。これは「音楽表現の創意工夫」における「このような音楽表現をしたい」という思いや意図を大切にしながら、それを実際の演奏として表現できているのかを見取るためにこの位置に配置している。ただし【技- 】のように、聴奏や視奏の演奏技能を身に付けてから音楽表現を工夫する場合、「音楽表現の技能」の評価を前に置く場合もある。

このように、評価計画の作成に当たっては、評価の観点の趣旨を踏まえ、評価の内容に関連性をもたせることが大切である。

##### (4) 記録に残す評価と指導に生かす評価とのかかわり

本事例で評価規準を設定して行っている評価は、評価規準に基づいて児童の学習状況をA・B・Cで判断し、一定期間（学期、年間等）の総括に集約する記録に残す評価である。一方、教師は授業の中で常に児童の学習状況を把握し、それを基に児童の学習を充実させ

ていく指導に生かす評価を行っている。指導計画や授業の展開において、このような指導に生かす評価とかがかわらせながら評価規準を設定し、評価の結果を記録に残す評価を適切に位置付けていくことが大切である。

本事例の評価規準を基にしながら、「おおむね満足できる」状況、「十分満足できる」状況を判断していくことになる。その際、必要に応じて、予想される児童の姿を幅広く想定しておくことが効果的である。また、「努力を要する」と判断されそうな学習状況にある児童に対し、具体的な働きかけを講じて、「おおむね満足できる」状況となるように支援をすることも大切である。

#### (5) 各観点別評価の方法

本事例では、それぞれの観点について、以下の方法で評価を進めた。

##### 音楽への関心・意欲・態度について

【関 - 】では、「とんび」の歌詞が表す様子や曲想に関心をもって進んで歌おうとする学習状況を評価した。その際、積極的に発言しようとする姿、発言の内容に見られる学習内容への関心、友達の発言に対する反応、歌っているときの表情や体の動きの観察、歌声の聴取から見取るようにした。

【関 - 】では、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもってリコーダーを演奏する学習に進んで取り組もうとする学習状況を評価した。学習の振り返りの記述の内容を中心にしながら、グループにおいて表現の工夫に取り組んでいるときの様子やリコーダーを演奏しているときの行動の観察から評価した。

##### 音楽表現の創意工夫について

【創 - 】では、音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、歌詞の表す様子や曲想にふさわしい表現を工夫し、音楽表現についての考えや意図をもっている学習状況を、学習カードや楽譜に記述した内容、発言の内容、演奏の聴取から評価した。

具体的には、「とんび」の第1(1~4小節)、第2(5~8小節)、第4(13~16小節)フレーズの旋律を上行型でクレシェンド、下行型でデクレシェンドし、強弱の変化と旋律の動きを結び付けながら歌うと、とんびが飛ぶ様子がより表されることや、第3フレーズ(9~12小節)で「ピンヨロ」の旋律が問いと答えのように呼びかけ合っていることなど、音楽のよさや面白さを生み出している要素の働きに気付いているかどうか、表現したい思いや意図が表れているか、などを評価のポイントとした。

この評価場面は、第1時の後半から第2時である。継続した学習過程を、学習カードに記述した内容や発言の内容、演奏の聴取から見取ることにした。

【創 - 】では、音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、曲想にふさわしいリコーダーの表現を工夫し、このように演奏したいという音楽表現の考えや意図をもっている学習状況を評価した。

例えば、「4小節のゆったりとした旋律のまとまりが表現できるように、息つぎをしっかりとってフレーズの中で音が途切れないように演奏したい」といった音楽表現の考えや意図を、学習カードや楽譜に記述した内容や発言の内容、演奏の聴取から評価した。

「とんび」の楽譜を記した学習カードの記入例 (5~12小節抜粋)

もりあがっていくかんじで

な け な けー とんび あ お ぞーらー に

理由: 音が上に向かっていて、とんびがない感じにしたいからもりあげる

ちょっとだけおちついて

音が下がっているのを、少しおちついた感じにする

よびかけ合ってるように

つよく

ピン ヨロー ピン ヨロー ピン ヨロー ピン ヨロー

理由: 親子のとんびがよびかけ合っているようにしたいので、つよくよわくを順番にした

ピンヨローの部分は、 で示されることもある。

音楽表現の技能について

【技 - 】では、フレーズごとの呼吸の仕方に気を付けて、「とんび」の歌詞の表す様子や曲想にふさわしい表現で歌っているかについて、演奏の聴取から評価した。

具体的には、フレーズごとの呼吸に気を付け、とんびがゆったりと飛ぶ様子にふさわしい第1, 2, 4フレーズにおける旋律の抑揚表現、とんびが呼びかけ合っている様子にふさわしい第3フレーズの問いと答えの強弱表現などが、実際の演奏で表現できているかを見取りのポイントとし、グループごとに歌う場面をつくり、歌唱の聴取から評価した。

【技 - 】では、楽譜を見て旋律を階名で唱えたり歌ったりしているか、階名と運指とを合わせて正しくリコーダーで演奏しているかについて、行動の観察と演奏の聴取から評価した。具体的には、個人やペア、グループでの練習の際に、部分的にフレーズを取り出して聴取するなど、学習形態を工夫し、実態に合った方法で評価した。

【技 - 】では、リコーダーの音色に気を付けて、曲想にふさわしい表現でリコーダーを演奏しているかについて、演奏の聴取から評価した。

具体的には、旋律のまとまりを考えながら息つぎをしたり、フレーズの中で音が途切れないように気を付けて演奏したりすることができているかについては、グループ練習の過程での演奏の聴取や発表の際の演奏の聴取から評価した。また、1~8小節、9~16小節、25~32小節では、それぞれ二つのフレーズをなめらかに演奏したり、17~18小節では、歯切れのよい感じを出すためにタンギングに気を付けて演奏したりすることができているかについて、主に発表の際の演奏の聴取から評価した。

5 観点別評価の総括

(1) 題材における観点別の総括例

本事例では、各観点ごとに二~三の評価規準を設定している。それらを総括する場合、

次のような考え方がある。

ア 重点を置いて総括する

イ 同等に扱って総括する

本事例では、「音楽への関心・意欲・態度」について、導入時【関 - 】, 終末時【関 - 】の二つの評価規準を設定した。導入時では学習内容への興味・関心, 終末時では進んで取り組んでいる学習状況を評価した。この場合, 主体的な取組の学習状況を重視し, 後者の終末時【関 - 】に重点を置いて評価した。

また「音楽表現の創意工夫」は二つの評価規準, 「音楽表現の技能」は三つの評価規準を設定した。この場合, 例えば【創 - 】は歌唱表現の創意工夫, 【創 - 】はリコーダー演奏の創意工夫というように, 指導内容に即してどの評価機会も同等に重要であると判断できるため, 特に重点を置く評価機会をつくらず, 同等に扱って総括した。

( は重点を置いた評価規準)

総括の流れ			総括の考え方
評価規準	題材の 観点別の評価		
関 - 関 -	重点を 置いた 総括	A B C	<p>----- 音楽への関心・意欲・態度 -----</p> <p>Aと判断する場合 ・関 - がA, 関 - がAの場合 ・関 - がB, 関 - がAの場合 Cと判断する場合 ・関 - がC, 関 - がCの場合 ・関 - がB, 関 - がCの場合 Bと判断する場合 ・上記以外すべて なお, 関 - がC, 関 - がAの場合は, 当該児童の第2時の学習状況を考慮してBかAかを判断した。(次頁の表中, 番号8及び9の児童の場合)</p>
創 - 創 -	同等に 扱った 総括	A B C	<p>----- 音楽表現の創意工夫 -----</p> <p>Aと判断する場合 ・Aが1個以上の場合 (ただし, もう1個がCではない) Cと判断する場合 ・両方ともCの場合 Bと判断する場合 ・上記以外すべて</p>
技 - 技 - 技 -	同等に 扱った 総括	A B C	<p>----- 音楽表現の技能 -----</p> <p>Aと判断する場合 ・Aが2個以上の場合 (ただし, もう1個がCではない) Cと判断する場合 ・Cが2個以上の場合 (ただし, 3個内にAを含まない) Bと判断する場合 ・上記以外すべて なお, AとCが混在する場合はB Bと評価している。(例) A C C B B C 総括B</p>

この考え方によって総括した結果が, 以下の集計である。

Aは「十分満足できる」状況，空欄はB「おおむね満足できる」状況，Cは「努力を要する」状況を示す。

番	氏名	音楽への関心・意欲・態度			音楽表現の創意工夫			音楽表現の技能			
		関	関	総括	創	創	総括	技	技	技	総括
1		A		B		A	A	A		A	A
2		C		B			B	C		C	C
3			A	A	C	A	B			A	B
4		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
5		A	C	B			B	A	A	C	B
6				B			B	C	C	C	C
7			C	C	C		B	C		A	B
8		C	A	B	C	A	B		A	A	A
9		C	A	A			B	C			B
10			C	C			B	A	C	C	B

(2) 一定期間(学期, 年間等)における観点別評価の総括例

一定期間における観点別評価の総括においては, 題材ごとに総括したA, B, Cを累積し, 下記のように総合的に判断した。各観点においてAが半数以上であれば総括もA, Bが半数以上であれば総括もBとし, AとCが同一観点内に混在する場合は, ACをBBとして総括した。

番号	氏名	音楽への関心・意欲・態度					音楽表現の創意工夫				音楽表現の技能				鑑賞の能力		
		題材	題材	題材	題材	総括	題材	題材	題材	総括	題材	題材	題材	総括	題材	題材	総括
		旋律の演奏しよ	こ曲を味わって聴	音を聴き合って合	も日本の音楽に親し		旋律の演奏しよ	わ音を聴き合って合	も日本の音楽に親し		旋律の演奏しよ	わ音を聴き合って合	も日本の音楽に親し		こ曲を味わって聴	も日本の音楽に親し	
1		A	B	A	B	A	A	B	B	B	A	A	B	A	B	B	B
2		A	B	B	B	B	A	B	A	A	A	B	A	A	A	B	A
3		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	A	A
4		B	B	C	B	B	B	C	B	B	B	C	B	B	C	C	B
5		B	C	B	C	B	C	C	B	C	B	C	C	C	C	B	B
6		B	C	A	A	B	C	A	A	B	C	C	A	B	C	A	B

このほかにも, 題材における観点別の評価の総括や, 一定期間における観点別の評価の総括については, 様々な考え方や方法がある。例えば, 「A表現」領域では, 必要に応じて, 歌唱, 器楽, 音楽づくりの活動分野ごとに観点別評価のデータを集約することも考えられる。また総括の仕方については, ABCを数値で表す方法なども考えられる。各学校において, 適宜, 工夫することが望まれる。

音楽科 事例 2  
 題材名 祭りの音楽に親しもう  
 第 5 学年「A 表現・器楽」「B 鑑賞」

キーワード：  
 「音楽表現の創意工夫」の評価  
 「音楽表現の技能」の評価

本事例は、器楽教材として「八木節」（栃木・群馬県民謡）、鑑賞教材として「仁羽」（神田囃子より）を扱う。和楽器（和太鼓、鉦）の音色、リズム、音の重なりなどが特徴的な楽曲である。祭りの音楽のよさや面白さを感じ取りながら、表現を工夫して演奏したり味わって聴いたりする学習を展開する。なお、本事例の「八木節」は器楽合奏に編曲したものである。学習指導要領の内容は、「A 表現」（2）器楽の指導事項イ、ウ、エ、「B 鑑賞」（1）鑑賞の指導事項イ、ウ、〔共通事項〕のうち音色、リズム、旋律、音の重なり、反復などを扱う。

### 1 題材の目標

- （1）表現と鑑賞を通して、日本の民謡や祭囃子に興味・関心をもち、友達とかかわりながら我が国の音楽に親しむようにする。
- （2）囃子の音色、リズム、音の重なりなどの面白さを感じ取りながら、合奏の表現を工夫し、音を合わせて演奏するようにする。
- （3）祭囃子の音色、リズム、音の重なりなどの面白さを感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさを理解し、味わって聴くようにする。

### 2 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
<p>様々な楽器の音色、リズム、旋律が重なり合う「仁羽」の祭囃子の特徴に興味・関心をもち、主体的に聴こうとしている。            【関 - 鑑賞】</p> <p>楽器の特徴を生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。            【関 - 器楽】</p>	<p>「八木節」の音色、リズム、旋律、強弱、音の重なり、拍の流れ、反復、音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取っている。            【創 - 器楽】</p> <p>音楽的な特徴を感じ取りながら、楽器の組合せや音を合わせて演奏する表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや願い、意図をもっている。            【創 - 器楽】</p>	<p>拍の流れを感じながら、和太鼓の音色を生かし正しいリズムで演奏している。            【技 - 器楽】</p> <p>担当する楽器の特徴を生かした演奏をしている。            【技 - 器楽】</p> <p>自分の音を友達の音と調和させて合奏をしている。            【技 - 器楽】</p>	<p>「仁羽」の祭囃子の音色、リズムの反復、旋律、音の重なりなどの面白さなどから、想像したことや感じ取ったことを言葉で表して、祭囃子の特徴や演奏のよさを理解し、味わって聴いている。            【鑑 - 】</p>

3 指導と評価の計画（7時間）

時間	ねらい 学習内容・学習活動	評価の観点				評価規準	評価方法
		関	創	技	鑑		
第一次 第1時	<p>様々な楽器の音色，リズム，旋律が重なり合う祭囃子の特徴に興味・関心をもって聴く。</p> <p>地域の祭囃子を想起し，知っていることを話し合う。 祭囃子のリズムを知る。 ・口唱歌<small>くちしょうが</small>を唱える。     テケ天ツクテケツク天～</p> <p>・祭囃子のリズムを和太鼓で演奏する。     「仁羽」を聴き，祭囃子の音色，リズム，旋律，音の重なり，反復を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら，祭囃子に親しんで聴く。</p> <p>・和太鼓のリズムを口ずさんだり，手や膝で打ったりしながら，祭囃子のリズムに親しむ。</p> <p>・様々な楽器の音色，リズム，旋律などを聴き取り，発表する。</p> <p>・好きな楽器の演奏を模倣しながら楽しく聴く。</p> <p>・感じ取った祭囃子のよさや面白さを発表する。</p>					<p>様々な楽器の音色，リズム，旋律が重なり合う「仁羽」の祭囃子の特徴に興味・関心をもって，主体的に聴こうとしている。 【関 - 】</p>	<p>行動の観察 発言の内容</p>
第二次 第2時	<p>「八木節」の音楽的な特徴を感じ取りながら，楽器の音色の特徴を生かし，楽器の組合せや音を合わせて演奏する表現を工夫し，合奏する。</p> <p>器楽合奏に編曲した「八木節」の範奏を聴き，音色，リズム，旋律，強弱，拍の流れ，音の重なり，反復，音楽の縦と横の関係を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取る。</p> <p>・「仁羽」の特徴と比べる。</p> <p>・「八木節」の範奏を聴いて感じ取ったことや気付いたことを学習カードに書いて発表する。     拍の流れを感じながら，囃子の一部を全員が演奏する。</p> <p>・主な旋律を口ずさむ。</p> <p>・拍の流れを感じながら，和太鼓のパートを演奏する。</p>					<p>「音楽表現の創意工夫」場面1 「八木節」の音色，リズム，旋律，強弱，音の重なり，拍の流れ，反復，音楽の縦と横の関係を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取っている。 【創 - 器楽】</p> <p>「音楽表現の技能」場面1 拍の流れを感じながら，和太鼓の音色を生かし正しいリズムで演奏している。 【技 - 器楽】</p>	<p>学習カードの記述 発言の内容</p> <p>演奏の聴取</p>
	<p>自分が担当する楽器の特徴を生かして，拍の流れを感じながら</p>						

第3時	各パートの演奏をする。 ・自分が担当する楽器を決めて演奏する。 パート リコーダー（主な旋律） 木琴やオルガンなど（伴奏） 和太鼓（締太鼓，大太鼓），鉦				楽器の特徴を生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。【関 - 器楽】	行動の観察
第4時	「八木節」の音楽的な特徴を感じ取りながら，グループごとに，楽器の組合せや音を合わせて演奏する表現を工夫し，合奏をする。				「音楽表現の創意工夫」場面2 音楽的な特徴を感じ取りながら，楽器の組合せや音を合わせて演奏する表現を工夫し，どのように演奏するかについて自分の考えや願い，意図をもっている。【創 - 器楽】	学習カードの記述 発言の内容 児童との対話 演奏の聴取
第5時					担当する楽器の特徴を生かした演奏をしている。 【技 - 器楽】	演奏の聴取
第6時	グループごとに，工夫した「八木節」の合奏を発表する。 ・発表前の練習をする。 ・自分たちの工夫を生かしながら，グループごとに合奏する。				「音楽表現の技能」場面2 自分の音を友達の音と調和させて合奏をしている。 【技 - 器楽】	演奏の聴取
第三次	感じ取ったことなどを言葉で表して，「仁羽」の祭囃子の特徴を理解し，味わって聴く。					
第7時	様々な楽器の音色，リズム，旋律が重なり合う「仁羽」の祭囃子の特徴をつかむ。 ・和太鼓（締太鼓，大太鼓），鉦の音色，リズムの反復，音の重なり，笛の音色や旋律と他の楽器との重なりを聴き取る。 ・想像したことや感じ取ったことを音楽的な特徴に基づいて発表する。 「仁羽」を紹介する文を書き，祭囃子の特徴を理解し，味わって聴く。 ・「仁羽」の祭囃子の特徴，そこから感じ取ったり想像したりしたこと，「八木節」の演奏体験など，これまでの学習を生かして楽曲の紹介文を書き，発表する。 ・「仁羽」の祭囃子のよさを味わって聴く。				「仁羽」の祭囃子の音色，リズムの反復，旋律，音の重なりなどの面白さなどから，想像したことや感じ取ったことを言葉で表して，祭囃子の特徴や演奏のよさを理解し，味わって聴いている。 【鑑 - 器楽】	学習カードの記述 発言の内容

#### 4 観点別評価の進め方

本事例では、指導と評価の計画の中から、「音楽表現の創意工夫」と「音楽表現の技能」について四つの場面を取り上げている。

##### (1)「音楽表現の創意工夫」の評価

「音楽表現の創意工夫」の観点の趣旨は、「音楽を形づくっている要素を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら，音楽表現を工夫し，どのように表すかについて思いや意図をもっている」である。このうち「音楽を形づくっている要素を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら」の部分は，音楽的な感受に相当する〔共通事項〕事項アの内容である。評価の観点名は，これまでの「音楽的な感受や表現の工夫」から「音楽表現の創意工夫」に変わったが，音楽的な感受が支えとなっている点には変更はなく，〔共通事項〕事項アの学習が支えとなって，表現の学習が充実するという学習指導要領の趣旨が，評価の観点においても明確化されている。

「音楽表現の創意工夫」の評価においては，〔共通事項〕事項アの学習を支えとしながら，児童がいろいろと考えながら表現を試すこと，すなわち音楽表現を工夫することによって，どのように表すかについての思いや意図をもつことを一体的にとらえ，音楽表現を創意工夫する力をはぐくみ，その学習状況を評価することが大切である。

どのように表すかの思いや意図の評価に当たっては，言語をはじめ，音や楽譜，体の動きなどで顕在化させて把握していくようにする。

音楽表現の創意工夫「場面1」:「八木節」の音楽的な特徴を感じ取る場面の評価

##### 評価規準

「八木節」の音色，リズム，旋律，強弱，音の重なり，拍の流れ，反復，音楽の縦と横の関係を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取っている。

【創 - 器楽】

##### 評価方法とポイント

「八木節」の音楽的な特徴（音楽を形づくっている要素，それらの働きから感じ取ったことなど）を書き込む学習カードの記述を中心にしながら，発言の内容も加味して評価した。この場面では，「八木節」から聴き取った音楽を形づくっている要素とその働きから感じ取ったことが，学習カードの記述や発言に表れているかを評価のポイントとした。

##### 評価の実際

###### ア 学習カードや発言による評価

児童の学習カードの記述や発言には，次のものがあつた。

a 児：トンコトットのリズムをくり返しているところがおもしろい。

b 児：リコーダーと和だいこ，かねのリズムが同じ部分があつて，力強く感じた。

a 児，b 児の記述や発言は，「八木節」における音楽を形づくっている要素の特徴とその働きから感じ取ったことの記述として妥当と考えられることから，「おおむね満足でき

る」状況（B）と判断した。また，次のような学習カードの記述も見られた。

c 児：トンコトット，トンコトットのリズムのくり返しと，それがピタッと止まる部分がおもしろいところだと思う。

d 児：最後のところは，くり返される和だいのリズムとけんばんハーモニカのせんりつが大きくなって，わくわくする感じがした。

e 児：前の時間にきいた「にん羽」と同じように，「八木節」も和だいのリズムがくり返されていて，それに笛やかねなどの音色が重なって，祭りの音楽をもり上げているところが八木節のすてきなところだ。

c 児，d 児の記述は，「八木節」における音楽を形づくっている要素の特徴とその働きから感じ取ったことを的確にとらえ，聴き取ったことと感じ取ったことを関連付けて表している。また，e 児の記述は，前述のポイントに加えて，前時の学習経験を想起しながら，祭囃子の特徴を述べている。これらは質的に高まっている学習状況と考えられることから，「十分満足できる」状況（A）と判断した。

#### 音楽表現の創意工夫「場面2」：「八木節」の合奏表現をグループで工夫する場面の評価 評価規準

音楽的な特徴を感じ取りながら，楽器の組合せや音を合わせて演奏する表現を工夫し，どのように演奏するかについて自分の考えや願い，意図をもっている。

【創 - 器楽】

#### 評価方法とポイント

「八木節」の音楽的な特徴を手掛かりにしながら，楽器の組合せや音を合わせた表現を工夫する過程における音楽表現への自分の考えや願い，意図を見取るようにした。そのために，学習カードの記述，グループ活動における発言，演奏の聴取と児童との対話から評価を進めた。

この場面では，演奏の効果を高める工夫になっているかを評価のポイントとした。第4，第5，第6時と学習が進む中で，表現の工夫がどう深まり，また表現への自分の考えや意図がどう高まっていったのかを主に学習カードの記述から継続的に見取れるようにした。

#### 評価の実際

##### ア 学習カードによる評価

下記は，f 児の学習カードである。

時間	担当する楽器：リコーダー	
	工夫してみたところ	工夫の結果・次の時間に向けて
4	◆「レミーー，ソラシレッシレミーー」の部分は，リコーダーの演そうだけに，他の楽器は休みにする。そうしてリコーダーを目立たせたい。	◆いろいろな楽器で演そうするところと，リコーダーだけのところをつくることで，演そうに変化ができた。 ◆次の時間は，強弱の変化をつける工夫をしてみたい。
	◆「ミッソソ，ミッソソ，ミッソソ，ミ	◆うまくいった。人数を増やしていくことでだんだ

5	ッソソ…」のところを演そうする人数をだんだんふやして、クレシェンドさせてもり上げるようにした。	ん音を大きくしていった、最後のミのところできっせいに止まると、とてもかっこよかった。 ◆でも、曲全体を通して、みんなのリズムの速さが合わなくなるころがある。 ◆次の時間は、みんなでお祭りのリズムにのって演そうしたい。
6	◆お祭りのリズムにのってみんなで演そうするために、クラベスではくを打つパートを増やしてみた。	◆うまくいった。クラベスの音があることで、グループのみんなが拍の流れを感じてそろろうようになった。 ◆しかも、クラベスをたたく強さにも変化をつけることで、曲全体の強弱もよりはっきり表現できた。
<p>発表の感想を書こう</p> <p>ぼくたちのグループは、曲の最初から最後まで全部の楽器を使うのではなく、楽ふとはちがうけれども、リコーダーだけで演そうする部分をつくってみた。それを発表したら、リコーダーだけで演そうする部分では、きいているみんながおどろいているようだった。だから「うまくいった」と思った。工夫がうまくいってうれしかった。</p>		

f 児の記述からは、演奏効果を高めるための考えや願い、意図を見取ることができる。それを実際に試し、その結果を確かめた上で、次時の音楽表現への願いや意図をもっている。f 児の場合、学習を進める中で、音楽表現の創意工夫が質的に高まっていると考えられることから、「十分満足できる」状況（A）と判断した。

#### イ グループ活動における発言、児童との対話による評価

グループ活動において、どのような演奏の工夫をするかについて話し合っている場面では、「楽器の組合せ」や「表現の工夫」についての発言があるかどうか、その発言が出たときの周りの児童の反応はどうかなど、どの児童がどのような発言をするかを注意して見取った。また、面白いアイデアについて話し合っている場面では、アイデアが誰から発せられたのかを尋ねるなど、児童との対話を積極的に行うことで、児童の考えや意図を見取っていった。

#### ウ 演奏の聴取、児童との対話による評価

児童は、話し合ったことをもとに実際に音を出して合奏を始めた。その演奏を聴取することで、そのグループの工夫を見取ることもできた。その際、その工夫がどんなものであるのか、あるいは誰のアイデアでそのような工夫をすることになったのかを児童との対話の中で見取るようにしていった。

「音楽表現の創意工夫」の評価では、学習カードに記述した内容、合奏中の発言の内容、演奏の聴取と児童との対話といった評価方法を組み合わせることで、より効果的な評価が可能となった。

なお、本事例では、「音楽表現の創意工夫」について、【創 - 】【創 - 】の二つの評価規準を設定している。二つの評価結果が異なる場合は、〔共通事項〕事項アの学習を支えとしながら、音楽表現を創意工夫する学習が深まっていく学習状況を重視して、【創 - 】に重点を置いて総括した。

基本的には、【創 - 】の学習状況の評価結果を総括の評価としつつ、【創 - 】がA、【創 - 】がCの場合はBと総括した。また、【創 - 】がC、【創 - 】がAの場合は、個々の児童の学習状況の深まりを考慮して判断した。その中で、学習が進むにつれて、【創

- 】にかかわる学習状況等に改善が見られる場合はAと総括した。

## (2) 「音楽表現の技能」の評価

「音楽表現の技能」の観点の趣旨は、「音楽表現をするための基礎的な技能を身に付け、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりしている」である。

「音楽表現の技能」の評価においては、児童が音楽表現をするための基礎的な技能を身に付け、それを実際に音楽で表すことができるような力をはぐくみ、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりしている学習状況を評価することが大切である。

歌唱や器楽の場合、音楽表現の技能の評価は、基本的に「演奏の聴取」によって行う。一人一人の児童の技能を適切に見取るためには、学習形態を工夫したり、評価のポイントを把握しておいたりすることが大切である。

### 音楽表現の技能「場面1」:「八木節」の和太鼓のパートを演奏する場面の評価

#### 評価規準

拍の流れを感じながら、和太鼓の音色を生かし正しいリズムで演奏している。

【技 - 器楽】

#### 評価方法とポイント

全員が和太鼓のパートを演奏する場面である。拍の流れを感じながら、和太鼓の音色を生かし正しいリズムで演奏しているかを演奏の聴取から見取った。グループごとに演奏する場面をつくり、一人一人の児童の技能を見取りやすいようにした。スムーズに正しいリズムで演奏しているか、美しい音色で演奏しているかを評価のポイントとした。

#### 評価の実際

練習を重ねるにしたがって、ほとんどの児童が少なくとも「おおむね満足できる」状況(B)になった。その中で、リズムパターンに自然な強弱をつけて演奏していたり、躍動感のある演奏をしていたりする学習状況が見られた児童は、技能の質的な高まりがあると考えられることから、「十分満足できる」状況(A)と判断した。

一方、何度やってもリズム打ちがぎこちなくなってしまう児童も見られた。このままでは「努力を要する」と判断されそうな状況であることから、速度を落とすとともに、一緒にリズムを打ったり、より簡単なリズムに変更して練習させるようにした。その結果、その児童は拍の流れを感じながら、友達と音を合わせてスムーズに演奏できるようになり、「おおむね満足できる」状況(B)へと変容した。

### 音楽表現の技能「場面2」:グループによる「八木節」の合奏を発表する場面の評価 発表直前の合奏の場面の評価

自分の音を友達の音と調和させて合奏をしている。【技 - 器楽】

## 評価の方法とポイント

この評価規準は、合奏における音楽表現の技能を見取るものである。自分の音を友達の音と調和させて演奏する技能は、合奏表現をするために大切な技能である。

児童はこれまでに、各パートに分かれてそれぞれの楽器を演奏してきた。またその上で楽器の組合せや音を合わせて表現する工夫をしている。この過程を踏まえて、自分の音を友達の音と調和させて合奏をしている学習状況を演奏の聴取から見取った。

拍の流れを友達と合わせて演奏しているか、打楽器パート、旋律を演奏するパート、伴奏のパートの音のバランスを考えて演奏しているかを評価のポイントとした。

## 評価の実際

演奏の観察と聴取で見取る場面は、それぞれのグループについて2回あった。1回目は発表直前の合奏場面、2回目は発表の合奏場面である。

教師は、前時に児童がそれぞれの楽器の特徴を生かして演奏しているかについて評価を行っている。ここでは、音を合わせて演奏するための技能を合奏場面から評価する。また、それぞれのグループがどのような合奏の工夫をするのかについて、学習カードなどで事前に把握し、その上で評価を行った。

次に示すのは、児童の学習状況の例である。それぞれの学習状況について、右枠に示す理由から、A、Bを判断した。

### 【g児】

この児童は、拍の流れを友達と合わせながら、自分のパートを演奏している。

拍の流れを友達と合わせながら演奏している学習状況は、「自分の音を友達の音と調和させて合奏している」状況と見ることができる。したがって、「おおむね満足できる」状況(B)と判断した。

### 【h児】

この児童は、各パートの音のバランスを考えて、自分の楽器の音量を調整しながら演奏している。しかも、自分たちが目指している表現の工夫(曲の終盤にクレシェンドし盛り上げる)を実現させている。

各パートの音のバランスを考えて、自分の音を演奏している学習状況は、「自分の音を友達の音と調和させて演奏している」状況と見ることができる。したがって、「おおむね満足できる」状況(B)と判断できるが、この児童は、自分たちが創意工夫した音を合わせた音楽表現を、実際の演奏で表現できていた。合奏の技能として質的な高まりがあると考えられることから、「十分満足できる」状況(A)と判断した。

### 【i児】

この児童は、拍の流れを友達と合わせながら、自分のパートを演奏している。また、グループ全体のリズムや音の重なりを大切に演奏し、友達と視線を積極的に合わせながら、体の一部を動かして拍をとって演奏している。

友達と拍の流れを合わせて演奏している学習状況は、「おおむね満足できる」状況(B)と見ることができる。その上で、友達と視線を合わせ、拍の流れや表現のポイントを確認し、グループ全体のリズムや音の重なりを考えて演奏する行動は、合奏の技能として質的な高まりがあると考えられる。したがって、「十分満足できる」状況(A)と判断した。

音楽科 事例3  
 題材名 といとこたえの音がくをたのしもう  
 第2学年「A表現・歌唱」  
 「A表現・音楽づくり」「B鑑賞」

キーワード：  
 「音楽への関心・意欲・態度」の評価  
 「音楽表現の創意工夫」の評価

本事例は、歌唱教材では「山びごっこ」(おうちやすゆき作詞/若月明人作曲)、鑑賞教材では猫の鳴き声を模倣した「猫の二重唱」(G.ロッシー二作曲)を扱い、音楽づくりでは手作り音具を活用する。歌唱や鑑賞を通して問いと答えの面白さを感じ取り、それを生かして簡単な音楽をつくる学習を展開する。学習指導要領の内容は、「A表現」(1)歌唱の指導事項エ、(3)音楽づくりの指導事項ア、イ、「B鑑賞」の(1)鑑賞の指導事項ア、〔共通事項〕のうち音色、リズム、問いと答えなどを扱う。

### 1 題材の目標

問いと答えの表現や身の回りの音に興味・関心をもち、問いと答えの面白さを感じ取って二重唱を聴いたり、問いと答えのような表現を工夫して簡単な音楽をつくったりする。

### 2 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
問いと答えの表現や身の回りの音に興味・関心をもち、音楽を聴いたり、表現したりする学習に進んで取り組もうとしている。 【関 - 歌唱, 鑑賞, 音楽づくり】	身の回りの音の特徴を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、音の出し方を工夫したり、問いと答えなどを生かし、音を音楽にしていけることをいろいろと試して、自分の考えをもって簡単な音楽をつくる工夫をしたりしている。 【創 - 音楽づくり】	問いと答えになるように表現したり、つくったりリズムをつないだりして、音を音楽にしている。 【技 - 音楽づくり】	二重唱の歌声の違いや問いと答えを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、楽曲全体にわたる気分を感じ取って聴いている。 【鑑 - 】

音楽への関心・意欲・態度の評価規準は、参考資料の「音楽づくり」の設定例を参考に、歌唱、音楽づくり、鑑賞の活動に共通する規準として設定した。

### 3 指導と評価の計画(5時間)

次	ねらい 学習内容・学習活動	評価の観点				評価規準	評価方法
		関	創	技	鑑		
第1次	歌唱や体の動きの模倣を通して、模倣による表現の面白さを感じ取る。						
第1時	互いの歌声を聴き合って模唱したり、体の動きの模倣をしたりして、旋律やリズムの模倣による表現の面白さを感じ取る。 ・教師やCDの範唱を聴いて「山びごっこ」を模唱する。 ・歌声、体の動き、リズムの模倣						

	遊びをする。 ・歌詞や旋律に合う歌唱表現を工夫する。 ・グループ対グループ、一人対大勢、一人対一人など様々な人数で歌い合い、歌声の模倣の面白さを感じ取る。	①			◆問いと答えの表現に興味・関心をもち、歌唱、体の動き、リズムの模倣を楽しみ、進んで歌おうとしている。 【関一① 歌唱】	観察(表情, 行動)
第二次	◎問いと答えの面白さを感じ取って音楽を聴いたり、身の回りの音の面白さを感じ取って音遊びを楽しんだりする。					
第2時	○歌声の表情や問いと答えの表現を感じ取って二重唱を聴く。 ・「猫の二重唱」の始めの部分を聴き、何の動物の声をまねて歌っているのかを思い浮かべる。 ・指を動かしながら猫の対話のような歌声を聴き取り、二匹の猫の歌声の違いを感じ取る。 ○歌声の掛け合いや重なり、表情が「はじめ」、「なか」、「おわり」でどう変わったのかを感じ取りながら、楽曲全体を聴く。 ・「はじめ」、「なか」、「おわり」を聴き、各部分で気付いたこと、感じ取ったことを発表する。 ・音楽に合わせて体を動かしながら、楽曲全体にわたる気分を感じ取って聴く。	②			◆猫の対話を表す歌声に興味・関心をもち、進んで聴こうとしている。 【関一②鑑賞】	観察(表情, 行動)
			①		◆二重唱の歌声の違いや問いと答えを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、楽曲全体にわたる気分を感じ取って聴いている。 【鑑一①】	発言の内容 観察(行動)
<p>低学年では、一人一人の発言やつぶやきを取り上げて板書にまとめ、楽曲全体をとらえるようにすることが大切である。下記の板書例は、音楽づくりの「はじめ」「なか」「おわり」の工夫にもつながるように企図したものである。</p>						

〈板書例〉 ♪「ねこの二じゅうしょう」

こえのちがいは 2 ひきのねこのおはなしをきこう！

1 ひきめのねこ


- ・ ひくいこえ
- ・ おかあさんねこ
- ・ かなしそう
- ・ くらい
- ・ オスのねこ

2 ひきめのねこ

- ・ たかいこえ
- ・ こどものねこ
- ・ おかあさんねこにこたえている
- ・ あかるい
- ・ メスのねこ

音がくはどうかわっていったかな？

はじめ	----->	なか	----->	おわり
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ よるみたい。</li> <li>・ 「さびしいよ」となっている。</li> <li>・ 「ここにいるよ」とこたえている。</li> <li>・ 1 ひきめがなにかきいて、2 ひきめがこたえている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いっしょにダンスをしているみたい。</li> <li>・ いっしょにうたっている。</li> <li>・ たのしそうになった。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ おいかけっこがはじまったみたい。</li> <li>・ はやい。</li> <li>・ げんきになった。</li> </ul>

第3時	<p>身の回りの音に関心を持ち，問いと答えになるように音の出し方を工夫して音遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全員で輪になって座り，手作り音具を順に鳴らし，様々な音の出し方を試したり，リズム模倣をしたりする。</li> </ul>				<p>本題材で使う 手作り音具</p>  <p>3 cm角の紙の小箱にビーズ，豆など音の素材を入れた手作りの音具（振って鳴らす小箱）</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>手作り音具の音を聴き合い，同じ音色の手作り音具を持った友達が近くに集まる仲間集めゲームをする。</li> </ul>				<p>身の回りの音に興味・関心を持ち，音の仲間集めやリズム模倣などの音遊びに進んで取り組もうとしている。【関 - 音楽づくり】</p>	<p>観察(表情，行動)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体で輪になり，音色の異なる音具を持つ二人が輪の中央に出て，音具で音の対話をする。</li> <li>指揮者役の児童の指示で音を出し，問いと答えになるような表現を楽しむ。</li> </ul>				<p>音具の音色の違い，問いと答えを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら，問いと答えのある音の出し方を工夫している。【創 - 音楽づくり】</p>	<p>観察(行動) 演奏の聴取 発言の内容</p>
第三次	互いの音を聴き合い，問いと答えの表現を工夫したり，つくったりリズムをつないだりして，簡単なリズムの音楽をつくる。					
第4時	<p>問いと答えの表現を工夫したり，つくったりリズムをつないだりして簡単な音楽をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>四人グループで問いと答え（リズム模倣や音の対話），リズムリレー，リズムを重ね合わせる部分をつくり，それらをつないで簡単な音楽をつくる。</li> </ul>				<p>問いと答え，リズムリレー，重ね合わせる部分をどのような順でつないで音を音楽にしていくかをいろいろと試して，自分の考えをもって簡単なリズムの音楽をつくる工夫をしている。【創 - 音楽づくり】</p>	<p>観察(行動) 発言の内容 演奏の聴取</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループでつくった簡単なリズムの音楽を発表し合う。</li> </ul>				<p>問いと答えになるように表現したり，つくったりリズムをつないだりして，音を音楽にしている。【技 - 音楽づくり】</p>	<p>演奏の聴取</p>

#### 4 観点別の評価の進め方

本事例では，指導と評価の計画の中から，「音楽への関心・意欲・態度」と「音楽表現の創意工夫」について三つの場面を取り上げている。

(1) 「音楽への関心・意欲・態度」の評価

「音楽への関心・意欲・態度」の趣旨は、「音楽に親しみ、音や音楽に対する関心を持ち、音楽表現や鑑賞の学習に自ら取り組もうとする」である。

「音楽への関心・意欲・態度」の評価においては、児童が、学習内容に興味・関心を持ち、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の学習に自ら取り組んでいけるような力をはぐくみ、その学習状況を評価することが大切である。

第3時 手作り音具による音遊びの場面	
学習内容 ・主な学習活動	教師の働きかけ 評価規準
<p>手作り音具で音の仲間集めやリズム模倣をして、身の回りの音に関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全員で輪になって座り、一人1個ずつ手作り音具を持って順に鳴らし、それぞれの音を聴き合う。</li> <li>互いの音を聴き合い、同じ音色の手作り音具を持った友達同士が近くに集まる音の仲間集めゲームをする。</li> <li>教師の示すリズムを、全員または同じ音色のグループごとに模倣する。(まねっこ)</li> </ul>	<p>異なる素材を入れた手作り音具を五種類程度、用意する。</p> <p>音を鳴らさないようにして、手作り音具を配り、ささやかな音を大切にする雰囲気をつくる。</p> <p>仲間集めの後、同じ音色が隣り同士になるように、全員で輪を作って座るようにする。</p> <p>身の回りの音に興味・関心を持ち、音の仲間集めやリズム模倣などの音遊びに進んで取り組もうとしている。【関 - 音楽づくり】</p>

**評価の進め方**

手作り音具の音色に興味・関心をもっているか、友達とかかわりながら進んで音遊びに取り組もうとしているかを表情や行動の観察から判断していった。

この場面の興味・関心の対象は「音色」であるが、この後、興味・関心は「問いと答え」の表現へと深まっていく。また、音遊びで自然に生まれる友達とのかかわりは、第4時以降のグループ活動において、友達に積極的に働きかけながらともに工夫する意欲へと発展していく。興味・関心の深まり、意欲の高まりを継続して観察していくことが必要である。

したがって、「十分満足できる」状況(A)と判断するポイントは、「音色の違いを聴き比べ、様々な音を鳴らそうとしている」、「みんなと同じ音を出そうとしている」、「自分から進んで友達に働きかけ、相手を意識して音を出そうとしている」といった学習の深まりにつながる学習状況である。

評価を進めるに当たって、友達とかかわることが苦手な児童、なかなか音を集中して聴けない児童に対しては、そばに寄り添い、一緒に音を出したり、音色の違いがはっきりした音具を渡し、友達の音と聴き比べるように声を掛けたりすることで、授業の終末には関 - の学習状況が少なくとも「おおむね満足できる」状況(B)になるようにした。

(2) 「音楽表現の創意工夫」の評価

第3時 問いと答えの表現を工夫する音遊びの場面	
<p>音遊びを通して、問いと答えの表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>輪の中央に数名ずつ出て歩き、友達とすれ違うときに相手に挨拶するように、手作り音具を鳴</li> </ul>	<p>教師と児童の代表による音の対話の例を示して、問いと答えの表現の方法を知らせる。</p>

<p>らす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音色の異なる手作り音具を持つ二人が輪の中央に出て、音具で音の対話をする。(おしゃべり)</li> <li>指揮者役の児童が輪の中央に立ち、手で合図して全員または同じ音色のグループごとに音を鳴らし、問いと答えになるような表現を楽しむ。</li> </ul>	<p>前時に聴いた「猫の二重唱」の対話を振り返り、模倣以外に掛け合い、合いの手などの問いと答えを取り入れるようにする。</p> <p>音具の音色の違い、問いと答えを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、問いと答えのある音の出し方を工夫している。【創 - 音楽づくり】</p>
---	---

**評価の進め方**

音具の音色の違い、問いと答えを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、手作り音具の音色の違いに着目した音の出し方を工夫しているか、相手の音に問い掛けたり答えたりするような音の出し方を工夫しているか、音の出し方について自分の考えをもって発言しているかなど、行動や演奏の様子を観察、発言の内容から判断した。具体的には、すれ違うときに音具で挨拶する音遊びを全員が交替で行うようにし、問いと答えの表現を試みているか、一人一人の状況を見取るようにした。また、二人組の音の対話をする場面では、相手の音を聴いて問いと答えとなる音の鳴らし方を工夫しているか、音色の違いを生かした表現を工夫しているか、指揮者役の合図で音を鳴らす活動では、手の合図や体の動きを見てそれに合う音の出し方を工夫しているかを見取った。第4時前半の音遊びを通して音楽づくりの方法を知る場面でも、継続して観察していった。

「十分満足できる状況」(A)と判断するポイントは、「模倣、掛け合い、合いの手など様々な方法を試して表現を工夫している」、「相手を見て体の動きを伴いながら、相手の音に答えるような表現を工夫している」など、音をよく聴き、思いをもって問いと答えの表現を様々に工夫している状況である。

「努力を要する」状況と判断されそうな児童には、教師が「お返事するように音を出してごらん」、「さんのまねをしてみよう」などと声を掛けて、児童と一緒に音で対話をしながら模倣の面白さに気付くことができるようにした。このような支援の結果、すぐに変容した児童や第4時の創 - の評価場面で「おおむね満足できる」状況(B)に変容した児童も見られた。

第4時 手作り音具によるグループの音楽づくりの場面	
<p>互いの音を聴き合い、簡単なリズムの表現をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全員で輪になって座り、手作り音具でリズム模倣をする。(まねっこ)</li> <li>隣り同士で問いと答えのように、手作り音具を鳴らし合う。(おしゃべり)</li> <li>4拍分のリズムを一人ずつ鳴らしてつないでいく。(リレー)</li> <li>同時に音を鳴らしてみる。(いっしょ)</li> </ul> <p>グループで問いと答えの表現を工夫したり、つくったリズムをつないだり重ねたりして、簡単なリズムの音楽をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>四人グループで「まねっこ」、「おしゃべり」、「リ</li> </ul>	<p>音遊びをしながら、<u>まねっこ</u>、<u>おしゃべり</u>、<u>リレー</u>、<u>いっしょ</u>の方法を板書に示し、音楽づくりのルールを確認する。</p> <p>リレーのリズム例</p> <p>♪♪♪♪   ♪♪♪♪   ♪♪♪  </p> <p>各グループに <u>まねっこ</u>、<u>おしゃべり</u>、<u>リレー</u>、<u>いっしょ</u>の 作りかたカード を渡す。それを並べてどのようにリズムをつなぐか、考えるようにする。目の合図や音の合図でリズム</p>

レー」、「いっしょ」の中からいくつかの方法を選び、「はじめ」、「なか」、「おわり」の簡単な構成を意識して、どのような順でつないでいったらよいかを考え、いろいろと試しながらグループのリズムの音楽をつくる。

板書例

ムをつなぐようにする。

問いと答え、リズムリレー、重ね合わせる部分をどのような順でつないで音を音楽にしていくかをいろいろと試して、自分の考えをもって簡単なリズムの音楽をつくる工夫をしている。【創 - 音楽づくり】

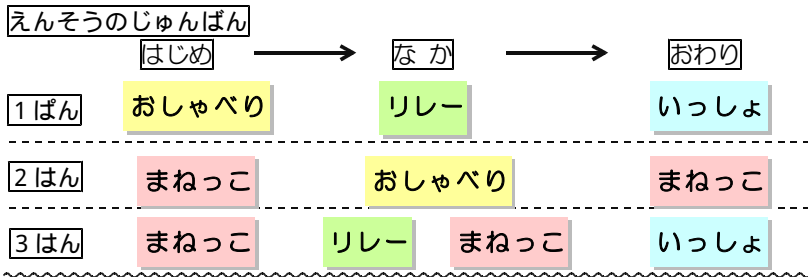
♪ 〈手作り音ぐ〉で音がくをつくろう！



どれをつかう？

まねっこ おしゃべり リレー いっしょ

つくりかたカードは3まいか4まいつかう。  
同じカードを2回つかってもよい。



この板書では、音楽づくりの方法と各グループが工夫した演奏の順番を示した。低学年ではグループのワークシートの代わりに板書を活用することが考えられる。第2時の鑑賞の板書と同様に「はじめ」「なか」「おわり」を示し、簡単な構成を考えるきっかけになるようにした。

### 評価の進め方

グループ内でつくり方カードを並べ替えて試している様子、つなぎ方についての発言、リズムの表現を工夫している演奏の様子など、行動の観察、発言の内容、演奏の聴取から判断した。

右のグループの例では、どの児童もつくり方カードを並べながらつなぎ方を試しており、「おおむね満足できる」状況（B）だった。

その中でも「繰り返して長くする」、「一緒に鳴らして盛り上げる」などの音楽的な効果をねらったb児やc児のような発言をし、それを実際に音にして、いろいろと試しながら、工夫している学習状況の児童を「十分満足できる」状況（A）と判断した。

#### 1班のグループ活動の様子

- a：カードを並べ替えている。「どれ使う？」
- b「みんなが出てくるからリレーがいいよ」一人ずつ順に鳴らす。
- c「すぐ終わっちゃうね」
- d：黙って友達の意見を聞いている。
- b「じゃあ、もう1回リレーする？」リレーを2回繰り返す。
- a「終わりはどうしよう」
- c「こうやって鳴らしたら盛り上がるよ」振ってジャラジャラと音を鳴らす。
- a c d：真似をして一緒に鳴らす。
- b：ジャラジャラジャラと鳴らしてからシャッと音を止める。
- a c d：同じように一緒に鳴らす。

音楽科 事例 4  
 題材名 曲想を味わってきこう

第 4 学年「B 鑑賞」

キーワード：  
 「鑑賞の能力」の評価

本事例では、鑑賞教材として「ノルウェー舞曲」第 2 番 イ長調（E.H.グリーグ作曲）を扱う。ABA の三部形式からなり、曲想とその変化、音楽を形づくっている要素のかかり合いを感じ取りやすい楽曲である。感じ取ったことや想像したことを紹介文に表すなどして、楽曲全体を味わって聴く学習を展開する。学習指導要領の内容は、「B 鑑賞」(1)鑑賞の指導事項ア、イ、ウ、〔共通事項〕のうち音色、速度、旋律、強弱、反復、変化などを扱う。

### 1 題材の目標

「ノルウェー舞曲」の曲想とその変化を感じ取ったり、音楽を特徴付けている要素と音楽の仕組みのかかり合いによってつくられる楽曲の構造に気を付けて聴いたりして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付き、楽曲全体を味わって聴くようにする。

### 2 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
楽曲全体にわたる曲想とその変化を感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。	音色、速度、旋律、強弱、反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽を特徴付けている要素と音楽の仕組みのかかり合いによってつくられる楽曲の構造に気を付けて聴いている。 曲想とその変化、音楽を形づくっている要素のかかり合い、演奏形態の違いなどから、想像したことや感じ取ったことを紹介文に表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴いている。

### 3 指導と評価の計画（3 時間）

時	ねらい ・ 学習活動	評価規準	評価方法
	楽曲に合わせて体を動かす活動を通して、曲想とその変化を感じ取って聴く。		
第 1 時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ノルウェー舞曲」やグリーグについての紹介を聞く。</li> <li>・オーケストラの演奏による「ノルウェー舞曲」を楽曲全体を通して聴き、想像した情景や様子などを発表する。</li> <li>・音楽に合わせて、歩いたり動作をしたりするなどして、曲想が変化していることに気付く。</li> <li>・音楽をよく聴きながら、曲想とその変化に合った体の動きを工夫する。</li> <li>・曲想の変化について気付いたことを発表し、</li> </ul>	楽曲全体にわたる曲想とその変化を感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。【関 - 】	行動の観察 発言の内容

	<p>その部分を聴いて確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 楽曲全体が、「はじめ」、「なか」、「おわり」の構成になっていることを確認する。</li> <li>・ 楽曲を全体にわたって感じ取りながら聴く。</li> </ul>		
<p>第2時</p>	<p>楽曲を「はじめ」、「なか」、「おわり」に分けて聴く活動を通して、音楽を特徴付けている要素と音楽の仕組みのかかわり合いによってつくられる楽曲の構造に気を付けて聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「はじめ」の旋律を聴き取って口ずさむなどしながら、その旋律の反復や楽器の音色に気を付けて聴く。</li> <li>・ 「はじめ」の旋律をオーボエやオーケストラが演奏していることに気付き、楽器の音色の違いを聴き取る。</li> <li>・ 「はじめ」と「なか」を続けて聴き、音楽を形づくっている要素のうち何が変化したのかを発表する。</li> <li>・ 「なか」から「おわり」を続けて聴き、音楽を形づくっている要素のうち何が変化したのかを発表する。</li> <li>・ 音楽を形づくっている要素の変化によって、楽曲の雰囲気などがどのように変わったのかを発表し合う。</li> <li>・ 楽曲全体を通して聴き、気付いたことや感じ取ったことを「学習カード1」に記述する。</li> </ul>	<p>&lt;実際の板書&gt;</p> <p>音色，速度，旋律，強弱，反復，変化を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら，音楽を特徴付けている要素と音楽の仕組みのかかわり合いによってつくられる楽曲の構造に気を付けて聴いている。</p> <p>【鑑 - 】</p>	<p>学習カード1の記述 発言の内容</p>
<p>第3時</p>	<p>想像したことや感じ取ったことをお話やイラストなどで表し，それらを生かして紹介文を書くなどして，楽曲全体の特徴や演奏のよさを味わって聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 楽曲全体を聴いて，想像したことや感じ取ったことを，お話やイラスト，色分けなどで「学習カード2」に表し，発表し合う。</li> <li>・ 音楽のどの部分から想像したり感じ取ったりしたのか，その部分を聴いて確認する。</li> <li>・ ピアノ独奏による「ノルウェー舞曲」第2番の演奏を聴き，ピアノによる演奏のよさについて気付いたことを「学習カード1」に記述し，意見を交流する。</li> <li>・ 「ノルウェー舞曲」第2番の紹介文を「学習カード3」に記述し，発表する。</li> <li>・ オーケストラによる演奏，ピアノによる演奏をそれぞれ聴き，楽曲の特徴や演奏のよさを味わう。</li> </ul>	<p>曲想とその変化，音楽を形づくっている要素のかかわり合い，演奏形態の違いなどから，想像したことや感じ取ったことを紹介文に表すなどして，楽曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴いている。</p> <p>【鑑 - 】</p>	<p>学習カード3の記述</p>

#### 4 観点別評価の進め方

本事例は、指導と評価の計画の中から、「鑑賞の能力」について二つの場面を取り上げている。

##### (1) 「鑑賞の能力」の評価

「鑑賞の能力」の観点の趣旨は、「音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさなどを考え、味わって聴いている」である。

このうち「音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら」の部分は、音楽的な感受に相当する〔共通事項〕事項アの内容である。これまでの鑑賞の指導と評価においては、音楽的な感受に相当する能力を「音楽的な感受や表現の工夫」の観点で見取っていたが、新しい評価では「鑑賞の能力」で見取ることとしている。〔共通事項〕事項アの学習が支えとなって、鑑賞の学習が充実するという学習指導要領の趣旨が、評価の観点においても明確化されている。これからの「鑑賞の能力」の評価においては、〔共通事項〕事項アの学習を支えとしながら、楽曲の特徴や演奏のよさなどを考え、それを言葉で表すことなどを一体的にとらえ、楽曲全体を味わって聴くことのできるような力をはぐくみ、その学習状況を評価することが大切である。

##### (2) 評価の実際

本事例では、「鑑賞の能力」の観点について、二つの評価規準を設定し、それぞれの場면을例示した。

【鑑 - 】では、音色、速度、旋律、強弱、反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽を特徴付けている要素と音楽の仕組みのかかり合いによってつくられる楽曲の構造に気を付けて聴いている学習状況を、「学習カード1」の記述を中心に、発言の内容も補完的に加味して評価した。

【鑑 - 】では、曲想とその変化、音楽を形づくっている要素のかかり合い、演奏形態の違いなどから、想像したことや感じ取ったことを紹介文に表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴いている学習状況を、「学習カード3」の記述から評価した。

なお、想像したことや感じ取ったことを紹介文に表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いている学習状況を実現するためには、曲想とその変化を感じ取ったり、音楽を形づくっている要素のかかり合いによってつくられる楽曲の構造に気を付けて聴いたりするなどの学習の指導を充実させることが大切となる。

#### 第2時 「ノルウェー舞曲」第2番を三つのまとまりに分けながら部分的に聴く場面

評価場面とその方法	・「はじめ」と「なか」、「なか」と「おわり」に分けて数回聴く場面。 ・それぞれの部分の音楽を形づくっている要素の変化について気が付いたことを、「学習カード1」に記述した内容を中心に、発言の内容も加味して評価する。
評価規準：音色、速度、旋律、強弱、反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽を特徴付けている要素と音楽の仕組みのかかり合いによってつくられ	


る楽曲の構造に気を付けて聴いている。【鑑 - 】

【評価の実際】

【a児の学習カード1】

曲名（ノルウェーぶ曲 第2番）作曲者（グリーグ）  
4年組 名前

1 音楽をきいて、気がついたことや感じ取ったことを書きましょう。

	はじめ	なか	おわり
	オーボエがせんりつ  明るい感じ	金かん楽器や低い音の楽器 たくさん楽器 とつぜんとまった  暗い・こわい感じ	はじめと同じせんりつ  また明るくなった感じ
<b>速さ</b>	ゆっくり	はやい	ゆっくり
<b>強弱</b>	しずか・弱い	はげしい・強い	しずか・弱い

a児の学習カードには、「はじめ」と「おわり」で同じ旋律が表れることへの気付き、「はじめ」「なか」「おわり」の三つのまとまりにおいて感じ取った雰囲気の変化（明るい 暗い また明るいなど）と音楽を特徴付けている要素（音色，速度，強弱など）の変化への気付きが見られる。


このような記述が読み取れる児童は、「おおむね満足できる」状況（B）と判断した。

【「十分満足できる」状況（A）と判断した児童の学習状況】

下記はb児の学習カードである。の部分に注目すると、「はじめ」「なか」「おわり」のそれぞれの部分においても旋律が反復することや、楽器の音色，旋律の動きに着目した気付きがある。これらの記述から、「楽曲の構造に気を付けて聴く」ことが質的に高まった学習状況ととらえ、「十分満足できる」状況（A）と判断した。

なお、授業中の発言については、学習カードの記述内容に準じて評価し、補完的な評価資料とした。

【b児の学習カード1】

	はじめ	なか	おわり
	明るい おだやか オーボエとオーケストラが 同じせんりつをくり返す	暗い はげしい たくさん楽器 低い音の楽器→高い音の楽器 こまかい動きのせんりつが くり返す→とつぜんとまる	また明るくなる はじめと同じせんりつ 最後だけ少しちがう おわりそうで、また続く
<b>速さ</b>	ゆーり	はやい どんどんはやくなる	ゆーり
<b>強弱</b>	しずか・弱い	はげしい・強い	しずか・弱い



②第3時 これまでの学習を生かして、「ノルウェー舞曲」第2番の紹介文を書く場面

<p><b>評価場面とその方法</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽曲の紹介文を「学習カード3」に書いて発表し交流する場面。</li> <li>・紹介文「学習カード3」に記述した内容から評価する。</li> </ul>
<p>◆<b>評価規準</b>：曲想とその変化，音楽を形づくっている要素のかかわり合い，演奏形態の違いなどから，想像したことや感じ取ったことを紹介文に表すなどして，楽曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴いている。【鑑一②】</p>	
<p><b>【評価のポイント】</b></p> <p>これまでの学習（気が付いたり，感じ取ったり，想像したりしたこと）を生かしていること，楽曲のよさなどについて自分なりの考えを紹介文「学習カード3」に表しているかを評価した。以下は，ここでの評価のポイントである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「はじめ」，「なか」，「おわり」の音楽的な特徴を記述している。</li> <li>② 聴き取った「音楽を形づくっている要素」（音色，速度，旋律，強弱，反復など）に触れながら，感じ取ったことや想像したことを記述している。</li> <li>③ 楽曲のよさなどについて自分なりの考えを記述している。</li> </ol> <p>下記は「学習カード」に記されたc児の紹介文である。「はじめ」，「なか」，「おわり」の各部分の音楽的な特徴を的確に記述するとともに，音楽を形づくっている要素と，その働きから感じ取ったことや想像したことを具体的に記述している。さらに，楽曲の音楽的特徴をとらえて，楽曲のよさなどについて自分なりの考えを記述している。</p> <p>上記のポイントに照らして，「楽曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴いている」が質的に高まった学習状況と考えられることから，「十分満足できる」状況（A）と判断した。</p> <p style="text-align: center;"><b>【c児の学習カード3】</b></p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>「はじめ」は，<u>ゆっくりで静かなオーボエのせんりつ</u>がきこえます。静かで明るい感じで，<u>のんびりさんぼしている</u>ようです。</p> <p>「なか」は，<u>とつぜん，速くはげしい感じ</u>になります。<u>細かなリズムのせんりつ</u>になり，<u>どんどん速くなっていきます</u>。<u>大きな声においかげられた様子</u>を思いうかべました。<u>楽器がたくさん出てきて大きな音</u>がします。</p> <p>「おわり」は，<u>「はじめ」のオーボエのせんりつ</u>がまたきこえてきます。</p> <p>ほくは，<u>「なか」がピタッととまって，オーボエが始まる</u>ところが一番おもしろいと思います。</p> </div> <p>※ 実線は児童が聴き取ったこと，点線は感じ取ったこと，波線は想像したこと，二重線は曲のよさについての考えを示している。</p> <p><b>【「努力を要する」状況と判断されそうな児童への働きかけ】</b></p> <p>d児は，紹介文が書き出せない学習状況であった。そこで，学習カードの1と2に書いてあることをつなぎ合わせて書いてみるよう助言し，「はじめ」の音楽について一緒に考えた。その場面でd児から発せられた音楽を特徴付けている要素の言葉を基に，例えば「速さがゆったりとしているから，カード2のところで，ねこがベンチで気持ちよくなっているみたい，と書いたんだね」というように，聴き取ったことと想像したことが結びついていることをしっかりと認め，自信をもたせるような働きかけを行った。その結果，紹介文を書き出すことができ，「おおむね満足できる」状況（B）になった。</p>	

(3) 学習カードの例

曲名(ノルウェーぶ曲 第2番) 作曲者(グリーグ)  
4年組 名前

1 音楽をきいて、気がついたことや感じ取ったことを書きましよう。




	はじめ	なか	おわり
	オーボエとオーケストラが同じせんりつをくり返す  明るい感じ	金管、木管楽器 オーケストラたくさんとつぜんとまる  暗い・こわい感じ	はじめと同じせんりつ 最後はちょっとちがう  また明るくなる感じ
<b>速さ</b>	ゆっくり	はやい	ゆっくり
<b>強弱</b>	しずか 弱い	はげしい 強い	しずか 弱い
	ピアノは一人でえんそしていたけれど、オーケストラに負けないはく力があつた。ピアノも明るい、暗い、明るいのがよく出ている。		

「学習カード1」は、第2時の(共通事項)事項ア、「B鑑賞」の指導事項イの学習に対応する。  
鑑賞の能力 を評価する。

指導のポイント:「はじめ」「なか」「おわり」は空欄にしておく。1時間目の学習で、曲想とその変化について学んだことを基に児童が「はじめ」「なか」「おわり」というように言葉を決めて書き入れることで音楽の仕組みを意識させる。

この部分は、第3時のピアノ演奏による鑑賞の学習に対応する。記録に残す評価の対象とはしていない。

2 音楽をきいて、そうぞうしたことをとくいな方法(お話・イラスト・色分け)でつくってみましよう。

うかんだ様子 そうぞうしたことや思い	二羽のとりがなかよくおしゃべりしています。	ところが、ロげんかになりました。	言い合ったらすっきりして、なか直りしてまた遊びました。
			

「学習カード2」は、第3時の学習、楽曲全体を聴いて、想像したことや感じとったことを、お話やイラスト、色分けなどで表す学習に対応する。第2時の学習カード1の学習が支えとなる。記録に残す評価の対象とはしていない。

3 これまでの学習(気がついたり、感じ取ったり、想像したりしたこと)を生かして、この曲をしょうかいする文を書きましよう。

「はじめ」は〇〇で、「なか」では〇〇で、「おわり」は〇〇です。のように、それぞれの場面について持ちょうを書き、最後に曲のよさについて伝えましよう。

「学習カード3」は、第3時の後半の学習、「ノルウェー舞曲」の紹介文を書く学習に対応する。カード1やカード2において書き入れたことや表したことを基にしながらカード3において「紹介する文」を作成できるようにしている。  
鑑賞の能力 を評価する。

「はじめ」は、はやさがゆっくりのせんりつが聞こえます。オーボエです。しずかで明るい感じです。  
「なか」は、はやく、はげしい音楽になります。とりがロげんかしているみたいです。  
「おわり」は、「はじめ」のせんりつがまた出てきます。なんだかホッとした感じです。  
ピアノの演奏もあります。曲の感じが大きく変わるところがよさだと思います。

学習カードの作成に当たっては、指導と評価が一体的に展開できるように学習の過程や全体像が見えるように工夫することが大切である。

実線は児童が聴き取ったこと、点線は感じ取ったこと、波線は想像したこと、二重線は曲のよさについての考えを示している。